

B—2 家庭染料によるナイロンの染色

四天王寺女短大 ○今津 玲子
賢明女短大 三垣 富貴子
奈良女大 吉川清兵衛

1. ナイロン繊維は羊毛，絹と同様，酸性染料により染色し得る。われわれは家庭用酸性染料のナイロン繊維に対する適用性を検討するため，これら染料の染め足，均染性，堅ろう性などをしらべた。

2. 非イオン活性剤によって精練したナイロンタフタを供試料とし，染料は国産A，B両社の赤，黄，緑，青，紺，紫，黒の7色，染色は染料1.5%，5%，助剤はさく酸10%（いずれも o.w.f.），浴比1：100（堅ろう度試験に用いた布の染色は1：50），温度95～98°C，時間は120分まで行なった。染め足は初期染色速度として，染色開始後3分，5分，10分……と各時間における染着率より一

応 Vicker staff の実験式のみかけの速度恒数 K により、均染性は染色布の各部分の反射率測定により、また堅ろう性は J.I.S. 試験法により判定した。

3. 一般に染着率は大で、染色開始後15分間でほぼ80~95%を示し、この間の K 値はほぼ一定であった。A社のものでは黄、紺、青、赤、緑、黒、紫の順に、B社のものでは紫、黄、紺、赤、黒、青、緑の順に K は大→小となる。均染性は吸尽率が大きいいため、全般的に染料使用量が小なるとき、あまり良好でない。アニオン活性剤 (S.L.S.) を添加しても初期染色速度はあまり減じないが、均染性の向上には役立っている。堅ろう性は洗たく、汗、まさつに対してはよいが、耐光性は染料の色によって差異がある。